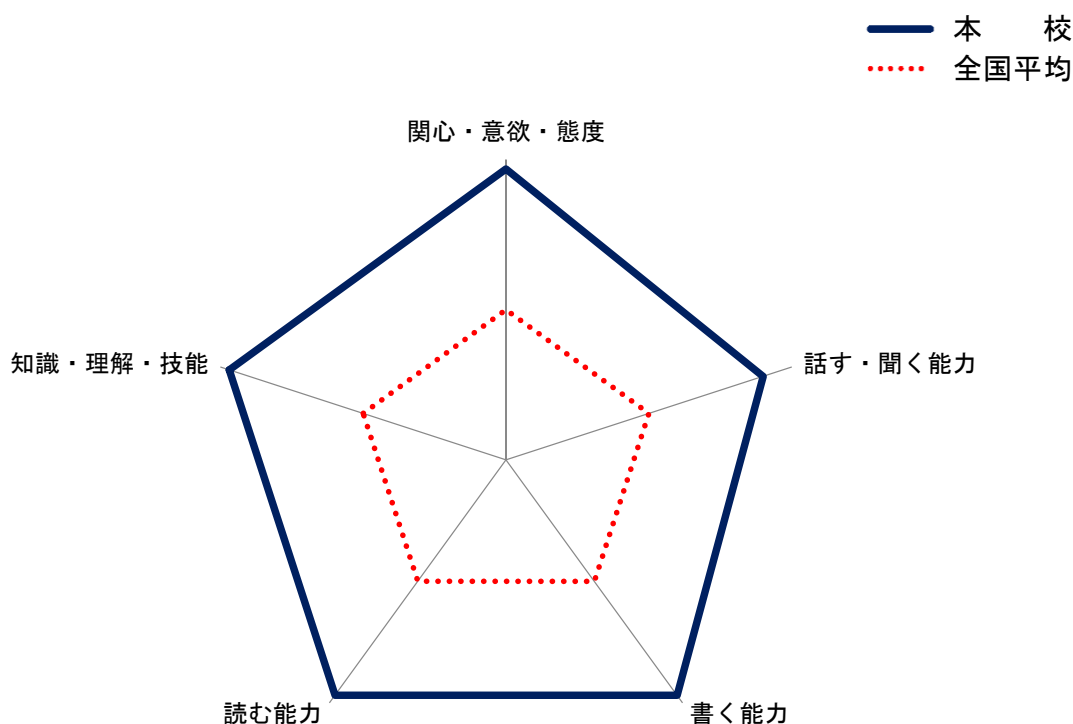


○国語に関する調査 (全国の平均正答率との差)

※今年度は国語と数学が調査対象



【結果の分析と改善策】

本校の平均正答率は86%と、全国平均を大きく上回り、良好な結果となっています。また、今年度の問題は全国的に正答率の低い傾向が見られますが、本校生徒は全ての領域で正答率が80%を超えており、バランスよく学習できているのではないかと考えます。特に、「話すこと・聞くこと」の正答率は93%と高くなっています。これは、1年次に実施した、国語の表現能力の育成に特化した領域の授業である「特別国語」（週当たり1時間配当）で、話す・聞く能力を重点的に身に付けさせてきた成果が表れたものと考えます。

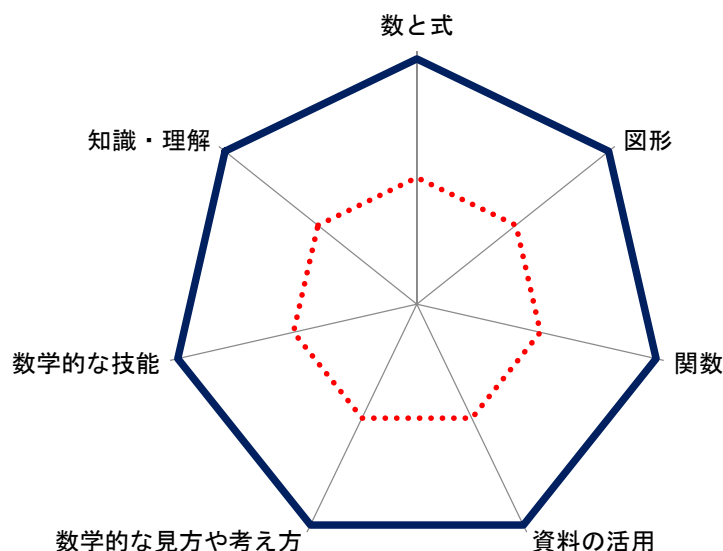
問題別に分類すると、「読むこと」の領域の、3四「主人公が登場人物をどのように評価し、どのような接し方をしていくかや、そのような接し方をどう思うかを書く」の正答率が55%（全国平均21%）と全国平均を大きく上回ってはいるものの、本校の正答率の中では最も低い数値となりました。この問題は、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」ことを趣旨とした記述式の問いでした。この力は、人工知能の飛躍的な進化が予測されるこれからの社会においても、人間の大きな強みになるべき「思考・判断・表現」の能力であり、中高一貫校である本校としては、最も力を伸ばさなければならない分野の一つだと考えます。

また、「言語についての知識・理解・技能」の領域の、4三「『行く』を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する」の正答率が70%（全国平均40%）と、やや課題の残る結果となりました。この問題は、「相手や場に応じて敬語を適切に使う」ことを趣旨とした短答式の問いでした。このことから、各教科で身に付けた知識や技能を、日常生活で汎用的に活用していく力を身に付けさせることの必要性を改めて認識するとともに、そういった活用を授業でも継続的に保障していくことが重要であると実感しました。

今後も、更なる授業改善に取り組みたいと考えています。

○数学に関する調査 (全国の平均正答率との差)

※今年度は国語と数学が調査対象



【結果の分析と改善策】

「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」のどの観点においても、本校の平均正答率は全国の平均正答率を大幅に上回っています。また、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のどの領域においても、本校の平均正答率は全国の平均正答率を大幅に上回っており、基礎・基本がしっかりと身に付いていることが分かります。

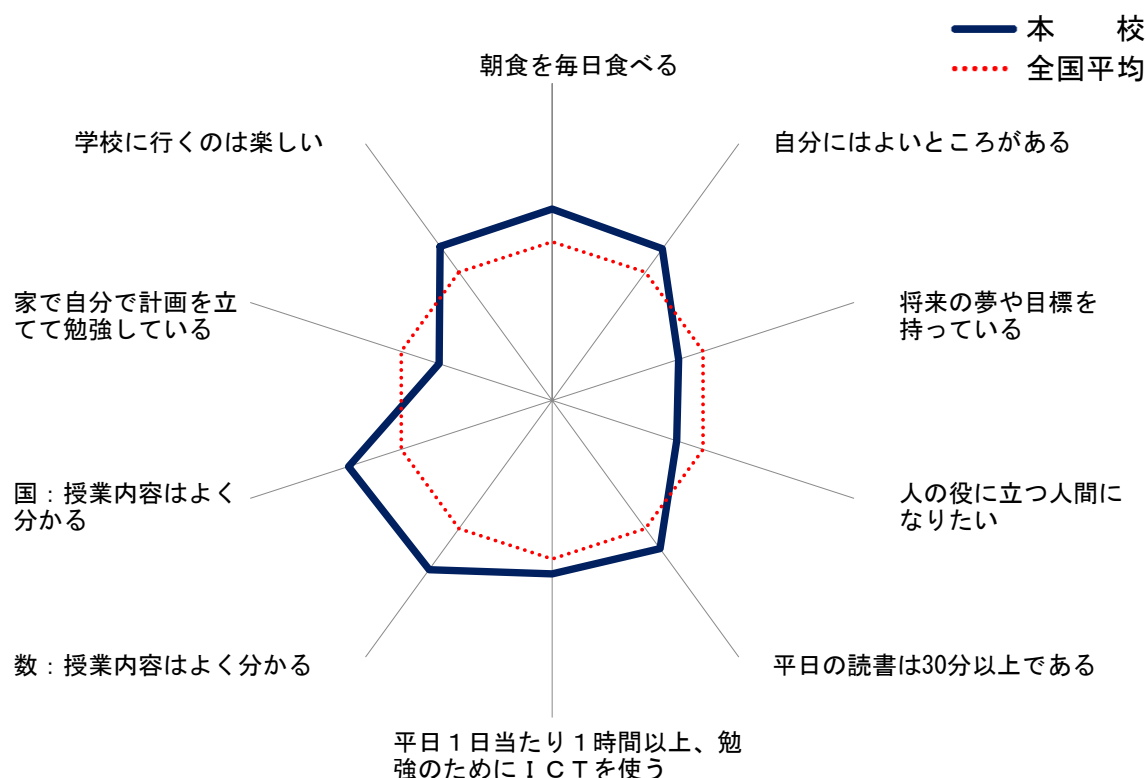
問題ごとに見てみると、6 (3)「事柄の特徴を数学的に説明する問題」、7 (2)「問題解決の方法を数学的に説明する問題」、8 (3)「判断の理由を数学的に説明する問題」、9 (3)「図形の性質を数学的に表現する問題」で、本校の正答者が全体の3分の2を下回っており、無解答率も比較的高くなっています。生徒質問紙調査においても、「数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の項目で、肯定的な回答が全国平均を下回っています。学びの深化と記述力の向上が課題となっています。

新学習指導要領では、新しく「思考・判断・表現」の観点が設定されています。引き続き、授業において主体的・対話的で深い学びを実現させるとともに、週末課題や補習において発展的な内容に挑戦させていきます。これまで以上に、公式やきまりが成り立つ理由や問題解決の過程を大切にさせるとともに、他者の考えを読み取ったり、自分の考えを表現したりする力を伸ばし、理解していることを活用したり応用したりする力の向上に努めていきたいと考えています。

令和3年度 全国学力・学習状況調査
(学習や生活の状況) 結果

松山西中等教育学校

○ 生徒質問紙調査 (全国の平均回答率との差: 肯定的な回答)



【結果の分析と改善策】

本校生徒は、おおむね規則正しい生活習慣が確立できており、一日当たりの勉強時間、読書時間、新聞を読む等の質問で全国平均以上の数値を確保できています。多くの生徒が学校生活を楽しんでいると答えており、充実した生活を送っているようですが、「将来の夢や目標を持っている」や「人の役に立つ人間になりたい」の質問で、肯定的回答の比率が全国平均よりやや低い傾向が見られます。生徒の現実認識の能力が高いがゆえに、明確な将来像を見出しにくくなっている面もあると思われませんが、コロナ禍の終息を見据えて、体験的活動や話し合い活動などを取り入れ、望ましい職業観・勤労観を育てていきたいと思えます。

学習面においては、国語、数学、英語ともに、「授業が好き」「授業が分かりやすい」と答える生徒が多く、知的好奇心が強く、意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえます。3教科の中では、特に数学を好む生徒が多いことが、この学年の特徴です。学習の方法に関しては、「生徒間で話し合う活動を通じ、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」や「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問で全国平均より肯定的回答の比率が高くなっています。話し合いや探究活動を重視する生徒が多いという結果は、新学習指導要領の趣旨にも合致しており、このような学習機会を増やしていけるよう、現在検討中です。また、ICT機器の学習への利用に関しては、ほぼ毎日利用する生徒が約3割と全国平均に比べ高い割合を示しています。本校では、ICT機器を活用した様々な学習の実践事例が蓄積されつつあり、今後もこの流れを継続して生徒の活用技能を高めていきます。